職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
専門学校中央医療健康大学 校		平成21年3月25日		鈴木 啓之		〒 422-8006 (住所) 静岡県静岡市駿河区曲金6-7-15 (電話) 054-202-8700				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人鈴木学園		昭和43年11月9日		鈴木 啓之		〒 411-0036 (住所) 静岡県三島市一番町15-35 (電話) 055-971-1833				
分野	認定課程名	認定学科名		専任士認定年度	高度専任士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
医療	医療専門課程	スポーツ柔整学科		平成21(2009)年度	-	平成28(2016)年度				
学科の目的	教育基本法に則り、学校教育法に従い、次に掲げる事項を行うとともに、教養の向上と人格の陶冶を図るため組織的な教育を行う。 (1)柔道整復師法に基づく柔道整復師の養成に必要な科学的知識・技能の修得 (2)スポーツトレーナーの養成に必要な科学的知識・技能の修得									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	教育内容:柔道整復師とスポーツトレーナーに必要な知識と技術 取得可能な資格:柔道整復師、日本トレーニング指導者協会認定資格(JATI-ATI)、日本コアコンディショニング協会認定ベーシックインストラクター、日本ファンクショナル協会認定資格、JREC認定リフレクソロジーレギュラーライセンス、サーティファイドキネシオセラピストトレーナー、日本コアコンディショニング協会認定アドバンスドトレーナー、日本アロマコーディネーター協会認定アロマコーディネーター、日本SAQ協会認定レベル1インストラクター、救急法資格、シナプソロジー普及会認定シナプソロジーインストラクター、日本バラスポーツ協会認定初級バラスポーツ指導員									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技		
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		2,970 単位時間	1,680 単位時間	270 単位時間	180 単位時間	0 単位時間	840 単位時間	
				162 単位	112 単位	18 単位	4 単位	0 単位	28 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率					
90人	86人	0人		0%	5%					
就職等の状況	■卒業生数(C)		25人							
	■就職希望者数(D)		22人							
	■就職者数(E)		22人							
	■地元就職者数(F)		3人							
	■就職率(E/D)		100%							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		14%							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		88%							
	■進学者数		0人							
	■その他									
	国家試験不合格者3名									
(令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)										
■主な就職先、業界等										
(令和6年度卒業生)										
接骨院・整骨院、鍼灸接骨院、整体院										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL									
当該学科のホームページURL	https://suzuki.ac.jp/chuoiryo/									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)									
	総授業時数		2,970 単位時間							
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		180 単位時間							
	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間							
	うち必修授業時数		2,970 単位時間							
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		180 単位時間							
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間							
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間							
	(B:単位数による算定)									
	総単位数		162 単位							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		4 単位								
うち企業等と連携した演習の単位数		0 単位								
うち必修単位数		162 単位								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		4 単位								
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		0 単位								
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位								
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3人							
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2人							
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人							
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1人							
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人							
	計		6人							
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		5人								

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
・教育課程編成委員会を通して出た意見・要望等に対して必要な限り、その年度の授業に反映し、適宜カリキュラムの見直し等を行っていく。
・授業外で企業と連携した特別講義を実施するなど、常に新しい知識と技術習得の時間の確保、必要とされる人材育成を行える時間を確保する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会が出された意見は、カリキュラム・シラバス検討会で審議され、最終的教頭及び校長の許可を経て決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 啓之	専門学校中央医療健康大学校 学校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
大石 法子	専門学校中央医療健康大学校 教頭	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
山口 智一	専門学校中央医療健康大学校 スポーツ柔整学科・柔整健康学科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
齋藤 佑介	専門学校中央医療健康大学校 スポーツ柔整学科・柔整健康学科 専任教員	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
上杉 一寿	公益社団法人静岡県柔道整復師会 副会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	①
岡本 猛	株式会社 Cocoro	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
望月 亘	株式会社 ハートメディカル	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月5日 13:30～15:30

第2回 令和7年3月12日 13:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

臨床実習においてスタッフや患者さんとのコミュニケーションがとれない学生が増加していることから、今年度から臨床実習前講義を取り入れていく。全国的に災害が増加しているため、応急処置の方法を授業内に取り入れていく。また超音波診断装置が普及されているため授業内で取り入れていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①現在求められている企業の高いニーズに応えられるようにしていくための知識・技術・資格の取得
 - ②校内では指導することや学生自身が経験することが難しい、専門分野に関する知識・技能・技術の習得
 - ③企業のニーズ、業界ビジョンの教授
- の3つを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

・授業内容

- ①臨床現場に必要な柔道整復師として身だしなみを身に付け、付帯業務等を知ることができる。
- ②臨床現場を通して柔道整復師に必要な専門知識、技術を学ぶ。
- ③臨床現場で実際の患者さんと接することでコミュニケーション能力を身に付ける。
- ④臨床現場を通して学生の将来の進路に役立てていく。

・学修成果の評価

臨床実習指導者から出題されたレポート・課題提出物の内容、出席率・実習時の態度等を考慮して総合的に評価を行う

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	3. 【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	臨床現場を見学するにあたり、どのように振る舞うべきかを自ら考え、自覚を持って取り組んでもらいたい。まずは常識的な言葉遣いと適切な行動を身につけ、最低限のマナーを習得する。臨床で経験した事柄をレポートにまとめ、後日発表をすることで、自分の経験を的確に表現できるようにする	ひらの鍼灸接骨院等
臨床実習Ⅱ	3. 【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	【見学型】 本実習では臨床の現場をイメージすることで、柔道整復師としてあるべき姿について自らよく考え、将来の自分の姿を想像する。臨床現場をイメージするにあたり、どのように振る舞うべきかを自ら考え、自覚を持って取り組む。まずは常識的な言葉遣いと適切な行動を身につけ、最低限のマナーを習得する。臨床で経験した事柄をレポートにまとめ、後日発表をすることで、自分の経験を的確に表現できるようにする。 【参加型】 本実習では臨床の現場を見学することで、柔道整復師としてあるべき姿について自らよく考え、将来の自分の姿をイメージしてほしい。臨床現場を見学するにあたり、どのように振る舞うべきかを自ら考え、自覚を持って取り組んでもらいたい。まずは常識的な言葉遣いと適切な行動を身につけ、最低限のマナーを習得する。臨床で経験した事柄をレポートにまとめ、後日発表をすることで、自分の経験を的確に表現できるようにする。	ひらの鍼灸接骨院等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学内の業務に従事していることでは得ることのできない、知識・技術・技能の更新を目的に実施。
専門学校中央医療健康大学校、教職員の研修規程に基づき、専攻分野における実務研修、指導力の習得・向上のための研修を個々の職務経験と勤務年数に応じて学科長及び教頭、校長と協議し計画的に受講する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 第9回科学的手法に基づくトレーニング指導者講習会	連携企業等: 特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会
期間: 令和6年6月1日(土)	対象: 専任教員3名
内容: トレーニングに指導に必要な知識を学ぶ。	
研修名: キネシオテーピング養成講座	連携企業等: 一般社団法人 キネシオテーピング協会
期間: 令和6年7月7日(日)	対象: 専任教員1名
内容: キネシオテーピングの基礎知識、実技を学ぶ。	
研修名: コアコンシンポジウム2024	連携企業等: 一般財団法人 日本コアコンディショニング協会
期間: 令和6年11月10日(日)	対象: 専任教員1名
内容: 基調講演、体験会、展示ブースを通して将来必要なトレーナーとしての知識・技術を学ぶ。	
研修名: キネシオテーピング適切な見立て&筋肉別テープ(上半身)	連携企業等: 一般社団法人 キネシオテーピング協会
期間: 令和6年12月1日(日)	対象: 専任教員1名
内容: 上半身の筋肉別テープ、スクリーニングテストを学ぶ。	
研修名: 第57回東海学術大会静岡大会	連携企業等: 公益財団法人日本柔道整復師会
期間: 令和6年11月24日(日)	対象: 専任教員2名
内容: 柔道整復師として必要な知識を学び、各会員による研究発表での症例報告や発表を聞き新しい知識を得る。	
研修名: キネシオテーピング適切な見立て&筋肉別テープ(下半身)	連携企業等: 一般社団法人 キネシオテーピング協会
期間: 令和6年12月1日(日)	対象: 専任教員1名
内容: 下半身の筋肉別テープ、スクリーニングテストを学ぶ。	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 第66回公益社団法人 全国柔道整復学校協会令和5年度教員研修会	連携企業等: 公益社団法人 全国柔道整復学校協会
期間: 令和6年9月21日(土)~9月22日(日)	対象: 専任教員4名
内容: 基調講演、柔道整復の研究ポスター発表、分科会等を行い最新医療知識や教育方法を学ぶ。	
研修名: 学生支援における段階的サポート	連携企業等: 全国専修学校協会
期間: 令和7年3月17日(月)	対象: 専任教員1名
内容: 休退学防止に向けたサポート方法を学ぶ。	
研修名: スイングストレッチセミナー	連携企業等: 一般財団法人 日本コアコンディショニング協会
期間: 令和7年3月24日(月)	対象: 専任教員1名
内容: スイングストレッチの基本理論と実技を学ぶ。	
研修名: ひめトレベーシックセミナー	連携企業等: 一般財団法人 日本コアコンディショニング協会
期間: 令和7年3月24日(月)	対象: 専任教員1名
内容: ひめトレの基本理論と実技を学ぶ。	
研修名: いろは体操セミナー	連携企業等: 一般財団法人 日本コアコンディショニング協会

期間:	令和7年3月18日(火)	対象:	専任教員1名
内容	いろは体操の基本理論と実技を学ぶ。		
研修名:	コアキッズ体操セミナー	連携企業等:	一般財団法人 日本コアコンディショニング協会
期間:	令和7年3月18日(火)	対象:	専任教員1名
内容	コアキッズ体操の基本理論と実技を学ぶ。		
研修名:	アシスティックストレッチベーシックセミナー	連携企業等:	一般財団法人 日本コアコンディショニング協会
期間:	令和7年3月14日(金)	対象:	専任教員1名
内容	アシスティックの基本理論と実技を学ぶ。		
研修名:	コアフォーストレーニングセミナー	連携企業等:	一般財団法人 日本コアコンディショニング協会
期間:	令和7年3月14日(金)	対象:	専任教員1名
内容	コアフォーストレーニングの基本理論と実技を学ぶ。		
(3) 研修等の計画			
① 専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	超音波ウェビナー	連携企業等:	日本超音波骨軟組織学会
期間:	未定	対象:	専任教員1名
内容	超音波診断装置における基礎知識・実技を習得していく。		
研修名:	東海接骨学会	連携企業等:	公益社団法人三重県柔道整復師会
期間:	令和7年11月23日(日)	対象:	専任教員2名
内容	柔道整復師として必要な知識を学び、各会員による研究発表での症例報告や発表を聞き新しい知識を得る。		
研修名:	日本柔道整復接骨医学会学術大会	連携企業等:	日本柔道整復接骨医学会
期間:	未定	対象:	専任教員2名
内容	柔道整復における教育方法を学ぶ。各研究発表を聴き、幅広い知識を得る。		
研修名:	キネシオテーピング講座	連携企業等:	一般社団法人 キネシオテーピング協会
期間:	未定	対象:	専任教員1名
内容	キネシオテーピングの概要を知り、その理論や技術を学ぶ。		
研修名:	JCCAシンポジウム2025	連携企業等:	一般財団法人 日本コアコンディショニング協会
期間:	令和7年11月16日(日)	対象:	専任教員1名
内容	基調講演、体験会、展示ブースを通して将来必要なトレーナーとしての知識・技術を学ぶ。		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	全国柔道整復学校協会教員研修会	連携企業等:	公益社団法人 全国柔道整復学校協会
期間:	令和7年9月27日(土)～9月28日(日)	対象:	専任教員5名
内容	基調講演、柔道整復の研究ポスター発表、分科会等を行い最新医療知識や教育方法を学ぶ。		
研修名:	日本トレーニング指導者協会主催研修会	連携企業等:	特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会
期間:	未定	対象:	専任教員3名
内容	スポーツトレーナーに必要な知識とトレーニング方法を学ぶ。		
研修名:	JATI筋トレ研修	連携企業等:	特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会
期間:	未定	対象:	専任教員1名
内容	筋力トレーニングに関する知識・技術を学ぶ。		
研修名:	スポーツアライアンス講座	連携企業等:	一般財団法人 スポーツアライアンス
期間:	令和7年9月～12月	対象:	専任教員1名
内容	トレーニング指導力の向上・トレーニング方法を学ぶ。		

研修名:	JATI研修	連携企業等:	特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会
期間:	未定	対象:	専任教員3名
内容	トレーニング指導者としての役割・資質・倫理の講義を学び主にトレーニング指導の知識・技能を学ぶ。		

研修名:	日本コアコンディショニング協会セミナー	連携企業等:	一般財団法人日本コアコンディショニング協会
期間:	未定	対象:	専任教員3名
内容	トレーニング指導者としての知識・技能を実技を通して学んでいく。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- 自己評価に対する評価を基本とし、改善方策・評価項目・重点目標、学校運営の改善取組み等について言及されているか。
- 自己評価の評価結果に対して、評価項目ごと学校関係者評価結果が付けられた相対的な記載となっているか。
- 学校関係者評価委員会が開催され、主体的・能動的な評価活動が行われているか。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果・教育成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(9) 財務
(9) 法令等の遵守	(8) 教育の内部質保証システム
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
委員から学生の自己分析を行わせ、将来の目標設定をさせてみてはどうかという意見があったため、1年次からキャリア支援をしていき卒業時の目標設定ができるように令和7年度から実施していく。また学生のモチベーション維持のため学校・学科イベントだけでなく、日頃の講義でも学生が主体的に学べるように工夫をしていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
久保寺 勇太	くぼでらボディメンテナンス株式会社	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
石橋 俊樹	株式会社ハートメディカル (専門学校中央医療健康大学校 卒業生)	令和7年4月1日～令和8年3月31日	卒業生
森竹 名保子	専門学校中央医療健康大学校 学生保護者	令和7年4月1日～令和8年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他())
URL: <https://suzuki.ac.jp/chuoiryo/disclosure/>
公表時期: 令和7年6月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校関係者の理解を深めるとともに、連携や協力を推進するために教育活動その他の学校運営状況に関する情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校名・所在地・連絡先
(2)各学科等の教育	理念・教育方針・カリキュラム
(3)教職員	教職員一覧(氏名・役職) (事業計画内)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職実績・キャリア教育
(5)様々な教育活動・教育環境	事業計画書(教育目標・教育計画含む)・事業報告書
(6)学生の生活支援	学生支援の取り組み状況 (事業計画内)
(7)学生納付金・修学支援	募集要項
(8)学校の財務	貸借対照表・収支計画書
(9)学校評価	学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://suzuki.ac.jp/chuoiryo/disclosure/>

公表時期: 令和7年6月1日

授業科目等の概要

(医療専門課程 スポーツ柔整学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			人文科学	現代社会を生きる上で必要とされる国語力、コミュニケーション力を身に付ける。	1通	60	4	○			○			○	
2	○			社会科学	社会学を通して人間と社会の関連性を様々な題材の中から学ぶ。医療・福祉等において求められるコミュニケーションの意義を理解し、実践に役立つ基礎能力を身につける。	1通	60	4	○			○			○	
3	○			保健体育	保健体育では、少人数でのラケットスポーツやチームスポーツ種目を実施し、正確なルールや各スポーツにおける身体の動かし方を身につける。	2前	60	2			○		○		○	
4	○			外国語	グローバル化の進展に対応できるコミュニケーション力と、医療現場でのグローバル化に対応できる知識を身に付ける。	1通	60	4	○			○			○	
5	○			解剖学	本講座は、初めて解剖学を学ぶ学生のために医学の「共通言語」である解剖学の「運動器系（骨学・筋学）」を除いた全ての内容を教授し修得していく。	1通	60	4	○			○			○	
6	○			解剖運動器系	柔道整復師としての必要な運動器の構造の理解し、修得する。	1通	60	4	○			○		○		
7	○			生理学	本講座は、初めて生理学を学ぶ学生のために人体の機能の全内容を1年かけて修得していく。	1通	60	4	○			○			○	
8	○			高齢者・競技者の生理学	この講義は、競技者あるいは高齢者の生理学の知識を学ぶ。運動に不可欠な骨格筋や、それに必要なエネルギー供給系やそれを支える呼吸循環系、内分泌系などについても詳しく学ぶ。競技者に対するパフォーマンス評価やトレーニング処方の際に専門的な運動生理学的な知識は不可欠であり、競技スポーツのコーチングや指導だけでなく、健康増進にかかわる生涯スポーツの推進においても生理学知識を基にして、処方を行えるような知識を修得する。	2通	60	4	○			○			○	
9	○			病理概論	病理学は疾病の本態を究明する学問であり、基礎医学から臨床医学へ橋渡しの役目をしている。学生は疾病の本態を理解するために、その成立や理論を習得し、ひいては問題発見および解決能力を身につける。	2前	45	3	○			○			○	

(医療専門課程 スポーツ柔整学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実習・ 実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
10	○			一般臨床概論	一般臨床医学の基礎となる総論的な事項とともに、臨床の場に置いて遭遇することが多い代表的な疾患を学び、これらの一般臨床医学的知識が役立って適切な治療ができるような柔道整復師となるように、医学的知識を身に付ける。	2後	60	4	○			○			○	
11	○			外科概論	外科学の基礎となる総論的な事項とともに、臨床の場に置いて遭遇することが多い代表的な外科疾患を学び、これらの外科的知識が役立って適切な治療ができるような柔道整復師となるように、医学的知識を身に付ける。	2後	30	2	○			○			○	
12	○			整形外科概論	整形外科の基礎となる総論的な事項とともに、臨床の場に置いて遭遇することが多い代表的な整形外科疾患を学び、これらの整形外科的知識が役立って適切な治療ができるような柔道整復師となるように、医学的知識を身につける。	2後	30	2	○			○			○	
13	○			鑑別診断	損傷や症状から鑑別疾患を考え、臨床の場において様々な可能性を考えながら適切な治療ができる柔道整復師となれるように、医学的知識を身につける。	3前	30	2	○			○			○	
14	○			医学史 (医療倫理・ 職業倫理含 む)	この授業では、医療の歴史を学び、その発展の過程を理解するとともに、過去の事例を通じて医療倫理の重要性を考察し、将来の医療人として必要な倫理観を修得する。	1通	60	4	○			○		○		
15	○			関係法規	現在の日本国は法的国家である。つまりは知る知らないに関わらず行動には全て法で規制した中で行われる。本授業では法律についての基礎から憲法、あるいは柔道整復師法やそれに付随する医療関係法までを知り社会においての法と呼ばれるものについての理解する。	3前	30	2	○			○		○		
16	○			柔道と体力増 進	柔道の歴史を学び、実技を通して柔道の中でも主に投げの形を行い、修得する。	1後	30	1			○	○				○
17	○			柔道と体力増 進Ⅱ	実技を通して柔道の中でも主に形と寝技を修得する。	2後	30	1			○	○				○

(医療専門課程 スポーツ柔整学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
18	○			柔道と体力増進Ⅲ	柔道における礼法・受け身・投げの形を身に付け、最終的に乱取ができるようになる。	3前	30	1			○	○		○		
19	○			社会保障	柔道整復師は開業することが可能であることから、医療費等の社会保障制度を理解することにより、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるよう必要な知識を身につける。また柔道整復師に重要な療養費請求について身につける。	3後	15	1	○			○		○		
20	○			基礎柔道整復学Ⅰ	柔道整復の業務分野と柔道整復師として心構えを理解する。 柔道整復学の総論を学び人体における損傷の治療と管理の基本となる知識を学び損傷に対する理解を深める。	1通	60	4	○			○			○	
21	○			基礎柔道整復学Ⅱ	この授業では柔道整復師に必要な診察、治療法、外傷予防の知識を学ぶ。また外傷である骨折、脱臼、軟部組織損傷をマクロな視点で学び身につける。	1後	60	4	○			○		○	○	
22	○			外傷の保存療法	柔道整復師が扱うことのできる、外傷の治療と経過、治癒判定に必要な基礎を学び、外傷に対する理解する。	2後	30	2	○			○		○		
23	○			基礎柔道整復学Ⅲ	柔道整復師として外傷や損傷を見る事は必須である。外傷や損傷の知識を身に付けることで、臨床現場にでた際、対応できる知識を身に付ける。この講義では柔道整復学の基礎となる外傷総論の内容の理解する。	3通	60	4	○			○		○		
24	○			基礎スポーツ柔整（スポーツ科学含む）Ⅰ	近年、柔道整復が必要とされる場所にスポーツ現場が挙げられる。スポーツ人口の増加とスポーツの多様化によりスポーツ現場でのスポーツ外傷が増えたためである。本講義ではスポーツ現場で柔道整復を適応させるために必要なスポーツの基本的知識と柔道整復師がスポーツトレーナーとして活動するために必要な知識の習得する。	1通	60	4	○			○		○		

(医療専門課程 スポーツ柔整学科)																
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
25	○			基礎スポーツ柔整（スポーツ科学含む）Ⅱ	最近の柔道整復師のスポーツ現場への進出は目覚ましいものがある。それに伴い、通常の柔道整復術とは違ったスポーツ現場における知識技術を必要とされる時代となってきている。本教科ではスポーツ現場における柔道整復師としての業務を学び、またスポーツトレーナーとしての実務を学び、修得する。	1後	60	4	○			○	○			
26	○			臨床柔道整復学Ⅰ	柔道整復師の業務に必要な頭部から上腕遠位部の損傷に関する骨・筋系の機能と構造を理解する。頭部・体幹・上肢骨折（上腕遠位部まで）の診察、治療、鑑別診断の方法を身につける。	2通	60	4	○			○			○	
27	○			臨床柔道整復学Ⅱ	柔道整復師の業務に必要な上肢（前腕近位部～手指）骨折、下肢骨折に関する骨・筋系の機能と構造を理解する。上肢（前腕近位部～手指）骨折、下肢骨折の診察、治療、鑑別診断の方法を学び身につける。	2後	60	4	○			○		○		
28	○			臨床柔道整復学Ⅲ	柔道整復師の業務に必要な、頭部・体幹・上肢・下肢脱臼と体幹・上肢軟部組織損傷に関する骨・筋系の機能と構造を理解する。上肢（前腕近位部～手指）骨折、下肢脱臼、体幹および上肢軟部組織損傷の診察、治療、鑑別診断の方法を学び身につける。	2通	60	4	○			○		○		
29	○			臨床柔道整復学Ⅳ	柔道整復師の業務に必要な上肢（前腕部）から下肢の損傷に関する骨・筋系の機能と構造を理解する。上肢前腕部軟部組織損傷～下肢軟部組織損傷の診察、治療、鑑別診断の方法を学び身につける。	3通	60	4	○			○		○		
30	○			柔整トレーナー学	柔道整復師・スポーツトレーナーとして必要な解剖学的知識（運動器）の名称や機能を理解し、スポーツ現場で起こる外傷・障害に対し、初期対応として患部の固定を行えるようになるために、根拠に基づいた巻き方を理解する。	1通	60	4	○			○			○	
31	○			物理療法等の取り扱い	柔道整復師の物理療法、および手技療法についてその種類と取り扱いについての注意、運用方法や応用方法を身につける。	2前	30	2	○			○		○		

(医療専門課程 スポーツ柔整学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
32	○			柔道整復術適 応の臨床的判 定	柔道整復師として業を成す上で施術の適 応の判断を行う場面がある。将来そのよう な場面に遭遇したときに必要となる知識、ま たは医用画像について学習し、修得する。	3通	60	4	○			○			○	
33	○			スポーツ柔整 学（スポーツ 科学含む）	柔道整復師・スポーツトレーナーとして必 要な解剖学的知識（運動器）の名称や機能に ついて学ぶ。 具体的には、関節の可動域を評価し、関 わる筋肉を理解した上で、可動域を向上させ るためにはどの部位をストレッチするべき かの判断を身につける。	1通	60	4	○			○			○	
34	○			応用柔整運動 科学	柔道整復理論の基礎となる外力発生時の力 の分析や外傷時の運動力学を理解する。ま た、身体各種の運動器と身体運動を理解し 、外傷時の運動器にかかる外力や身体運 動によって発生する外傷外力について理解 する。	2通	60	4	○			○		○		
35	○			機能訓練	この授業では高齢者介護、機能訓練指導の 方法を学習し、必要な知識を習得します。	2通	60	4	○			○		○		
36	○			応用臨床学Ⅰ	臨床現場で必要な上肢・下肢・頭部・体 幹・歩行評価法や検査法などを学び各外傷 に対する鑑別方法を修得する。教科書上の 基本的内容と臨床現場で実際行われている ことの違いとその目的についても理解する。	3通	60	4	○			○		○		
37	○			応用臨床学Ⅱ	臨床の現場で目にする損傷を確認し、それ に対する診察、整復、固定、観血療法の具 体的な方法を修得する。教科書上の基本的 内容と、臨床で実際に行われることの違 いとその目的についても理解する。 この講義では、上肢の損傷を取り扱う。	3通	60	4	○			○		○		
38	○			応用臨床学Ⅲ	臨床の現場で目にする頭部・体幹・下肢 の損傷を確認し、それに対する診察、整復 、固定、観血療法の具体的な方法を学ぶ。 教科書上の基本的内容と、臨床で実際に行 われることの違いとその目的を理解する。	3後	60	4	○			○		○	○	

(医療専門課程 スポーツ柔整学科)																
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
39	○			この授業では、柔道整復師としての業務を行うために必要となる知識、技術を学びます。また、各々が興味のある損傷、障害、疾患について調べ、説明することで、柔道整復師の発展や生涯にわたる自己研鑽の基盤となる姿勢を身につけます。	3通	60	4	○	△		○			○		
40	○		柔道整復実技Ⅰ	柔道整復術における包帯法を身につけ、柔道整復実技を通じ、固定に必要な理論と理を理解する。	1通	60	2				○	○			○	
41	○		柔道整復実技Ⅱ	上肢の外傷について学ぶ。 特に臨床で遭遇することが多い外傷やスポーツ傷害について詳細を学ぶ。 この授業の目的は、上肢帯から手指における外傷の処置方法を学び、修得する。	2通	60	2				○	○			○	
42	○		柔道整復実技Ⅲ	検査法・整復法の応用を学び、骨折・脱臼・軟部組織損傷に対する確に判断し対応できる技術を身につける。	3後	60	2				○	○		○		
43	○		柔道整復実技Ⅳ	包帯固定の応用を学び、骨折・脱臼・軟部組織損傷に対し固定肢位・固定材料などを的確に判断し固定できる技術を習得する。	3通	60	2				○	○		○		
44	○		柔道整復実技Ⅴ	下肢の外傷について学ぶ。 特に臨床で遭遇することが多い外傷やスポーツ傷害について詳細を学ぶ。 この授業の目的は、骨盤から足趾における外傷の処置方法を学び、修得する。	2通	60	2				○	○			○	
45	○		柔整トレーナー実技	柔道整復師が接骨院やトレーナーの現場で実践している上肢骨折・脱臼・軟部組織損傷、下肢骨折・脱臼・軟部組織損傷に対する物理療法・運動療法・手技療法の実際の施術を習得する。	3通	60	2				○	○		○		
46	○		外傷予防（高齢者と競技者）	スポーツの現場に必要な外傷について学習し、それに対する予防方法について理解する。 またメディカルチェックなどの評価方法についても修得する。	3通	60	2				○	○		○		
47	○		臨床実技Ⅰ	四肢関節の触診および徒手検査法、ROM、MMT、Reflex、アライメント等に関する知識を基盤とし、患者情報をもとに、情報の統合と解釈、問題点の抽出を行い、疾患を特定する柔道整復師の臨床現場で必要となる思考力および判断力を身につける。	3後	30	1				○	○		○		

(医療専門課程 スポーツ柔整学科)																
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
48	○		スポーツ柔整 実技Ⅰ（ス ポーツ科学含 む）	柔道整復師が臨床現場（施術所内・ス ポーツ現場）で必要とされる基本的実技を身に つける。	1通	60	2			○	○		○			
49	○		スポーツ柔整 実技Ⅱ（ス ポーツ科学含 む）	将来スポーツ現場に立つ際、運動器の触診 や徒手検査法により迅速に選手の状態を把 握する必要がある。この講義では実技形式 で骨の触診、身体計測法、関節可動域や 筋力の測定、主要な徒手検査法を練習し身 につけていく。	2通	60	2			○	○		○			
50	○		臨床実習Ⅰ	本実習では臨床の現場をイメージすること で、柔道整復師としてあるべき姿について 自らよく考え、将来の自分の姿を想像す る。 臨床現場をイメージするにあたり、どのよ うに振る舞うべきかを自ら考え、自覚を 持って取り組む。 まずは常識的な言葉遣いと適切な行動を身 につけ、最低限のマナーを習得する。 臨床で経験した事柄をレポートにまとめ、 後日発表をすることで、自分の経験を的確 に表現できるようにする。	2後	45	1			○	○			○	○	
51	○		臨床実習Ⅱ	【見学型】本実習では臨床の現場をイメ ージすることで、柔道整復師としてあるべき 姿について自らよく考え、将来の自分の 姿を想像する。 臨床現場をイメージするにあたり、どのよ うに振る舞うべきかを自ら考え、自覚を 持って取り組む。 まずは常識的な言葉遣いと適切な行動を身 につけ、最低限のマナーを習得する。 臨床で経験した事柄をレポートにまとめ、 後日発表をすることで、自分の経験を的確 に表現できるようにする。 【参加型】本実習では臨床の現場を見学・ 参加することで、柔道整復師としてあるべ き姿について自らよく考え、将来の自分 の姿をイメージする。 臨床現場を見学・参加するにあたり、どの ように振る舞うべきかを自ら考え、自覚を 持って取り組む。 まずは常識的な言葉遣いと適切な行動を身 につけ、最低限のマナーを習得する。 臨床で経験した事柄をレポートにまとめ、 後日発表をすることで、自分の経験を的確 に表現できるようにする。	3前	135	3			○	○			○	○	

(医療専門課程 スポーツ柔整学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
52	○		スポーツリラクゼーションⅠ	リフレクソロジーの実技修得と実践ためにリフレクソロジーの概要、反射区、栄養の知識とリフレに関連する解剖学と生理学について理解する	1前	30	1			○	○			○	
53	○		スポーツリラクゼーションⅡ	スポーツトレーナーの業務に必要なリラクゼーション(スポーツ整体)を指導できるようになる。スポーツ整体の基本技術を身につける。	2後	30	1			○	○			○	
54	○		スポーツライセンスⅠ	キネシオテーピング療法の基礎的知識及びテーピング技術を修得する。(1~6回) ストレッチの基礎的知識と実施方法を学び修得する。(7~15回)	1前	30	1			○	○			○	
55	○		スポーツライセンスⅡ	機能的に動く事に重点をおいた、ファンクショナルトレーニングをトレーニングの原理、原則に基づきながら講義して行きます。また、筋力強化に必要な理論的な知識を栄養学的な部分も含めて理解し、修得する。(1~8回) パラスポーツの取り組みや指導方法、障がい者基本法に定められた障がいの概要を学び身につける。(9~15回)	2前	30	1			○	○			○	
56	○		スポーツ栄養学	各種栄養素とその働きを理解することができる。食事の基本を理解し、食品選択や食事摂取などの実生活に活用することができるようになる。アスリートのための食事の基本を理解できる。柔道整復師国家試験内の栄養学該当箇所が解けるようになる。	2後	30	2	○			○			○	
57	○		公衆衛生概論	柔道整復師が施術所で業務を行うにあたって必要となる健康の概念、感染症の対策、施術所の衛生対策、保健医療制度の基本的な仕組みを身につける。	3前	30	2	○			○		○		
58	○		リハビリ概論	高齢社会の現在、柔道整復師も高齢者と接する機会がさらに増えることが推測される。高齢者の運動機能低下の原因と、それに対する機能回復・維持の方法を学習し、高齢者を診るための知識を身につける。	3前	30	2	○			○		○		
合計					58	科目	162 (2970)			単位 (単位時間)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	学則に定められた授業時間に出席していること 教育課程表に定められた全ての科目の単位を取得すること	1学年の学期区分	2期
履修方法:	教育課程表に定められた科目を履修していく。	1学期の授業期間	15週

(医療専門課程 スポーツ柔整学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。